



涌小通信

知内町立涌元小学校

〈学校教育目標〉

よく考える子 思いやりのある子 健康な子

重点教育目標「粘り強く学び 最後までやり切る心をもった子供の育成」

令和4年10月31日発行

「どのように認めてあげるか」

校長 柳澤 満

10月16日に行われた学芸会には、保護者の皆様を始め、多くの方々にご来校いただき、子供たちの熱演に大きな拍手を送っていただきました。厚くお礼申し上げます。終了後には多くの方々からお声をかけていただき、本校の教育の良さを皆さんにお伝えできたことを、職員一同、うれしく思いました。そして何より、子供たちが学芸会をやりきって「自分には良いところがあるんだ。」という気持ちを実感できたのが最大の成果だと感じています。保護者の皆様には、衣装をご準備していただいたり、おそらく家庭では台詞の練習にお付き合いくださったり、助言してくださったりいろいろな面でご協力をいただいたことと存じます。重ねてお礼申し上げます。子供たちが学芸会という行事を経験して、大きく成長できたのも、ご家庭で温かく見守っていただいているおかげだと改めて感謝申し上げます。

先日、「先生は覚えていますか？」で始まる一通の手紙がきました。15年前の教え子からでした。こういう時は、元担任としては、「ドキッ!」とします。どうやら私が言った一言、15年も前に言った言葉のことでした。その言葉とは、学習発表会の劇の本番前に「OOさんなら大丈夫!」という一言でした。また、卒業する時に先生から「OOさんなら、どんなピンチでも乗り越えられるから大丈夫」という手紙をもらい、今でも大切にしているとのことでした。その子は、公務員をめざし、試験を受けていますが、また今年も落ちたということでした。アルバイトをしながら、来年また挑戦するそうです。折れそうになる気持ちに折り合いをつけて、次こそは必ず合格すると頑張っているようです。言った方はすっかり忘れていても、言われた方はいつまでもしっかり覚えているということは意外とあります。「ほめられた人は、何十年たっても覚えている。何十年経っても嬉しいのです。人はほめられると、生涯で500回はその言葉が頭に響く。」と、ある心理学者の本で読んだことがあります。誰にでも、自分にとって大切な一言があるのではないかと思います。長い人生、「あの時、ああ言ってくれたからこそ、今の自分がある。」ということが……。返信の手紙には、大きな文字で「OOさんなら大丈夫!」と書いて郵便ポストに入れました。

さて、右の写真は、学芸会の器楽合奏の自主練習の一コマです。先生がいなくても、自分たちで高い集中力と真面目さを維持して練習に取り組んでいました。私も30年ほど教員をしていますが、こういう場面というのは、そう出会える場面ではありません。子供たちの姿に感動しました。

そこで、私は10月の朝礼で次のような言葉を子供たちに伝えました。



緊張すると思いますが不安は持たないで下さい。不安を持つほど、みなさんの練習は少なくありません。そしてその練習にも真剣さがあります。これこそが何よりも味方になり支えになります。練習はうそをつきません!

子供の頃の成功体験は、その後の人生に大きく関わってきます。子供の頃に、努力の結果「できた、うれしい」という経験をさせてあげることがいかに大切であるかということです。

しかし、子供たちはまだ大人のようにしっかりとした価値観を持っているわけではありません。周りの人からの言葉に強く影響されます。つまり子供がいくら成功体験と思える経験を積んだとしても、それを心から認めてくれる人が周りにいなければ、子供はそれを成功体験だと認識しません。反対に、たとえ失敗をしたとしても、その失敗の中に、子供が頑張ったところや、少しでも結果を出せたところを認めてあげれば、それは立派な成功体験となるのです。

子供たちは、学校では学習や行事を通して、家庭では習い事やスポーツを通して努力してできたという体験を毎日たくさんしています。それを見逃すことなく、一番近くにいる家族の言葉で、また教師の言葉で、子供たちの行動の中からたくさんの成功体験を拾い上げていきましょう。私たち大人の拾い上げたその成功体験が、子供自身の自己肯定感とか自己有用感を高める土台となってくれるはずです。

二期後半、そんな環境で教職員一丸となって、子供たちを育てていきたいと思います。